

# 2018 年度 UNISEC 総会・活動報告会 配布資料



**UNISON**  
unisec student organization

2018 年 7 月 28 (土), 7 月 29 日 (日)

横浜国立大学, 東京大学 本郷キャンパス

2018 年度 UNISON 代表  
竹澤 遼(横国大) 大関 幸也(静岡大)

## 内容

1. UNISEC 総会・活動報告会概要	3
2. プログラム	4
3. 今年度学生代表紹介	5
4. WG 代表 / イベント代表 一覧	6
5. 今年度 UNISEC 加盟団体一覧	7
6. 2017 年度 UNISON 決算報告	9
6.1. 収入の部	9
6.2. 支出の部	9
6.3. 繰越金	9
7. 2018 年度 UNISON 予算案	10
7.1. 収入の部	10
7.2. 支出の部	10
8. 2018 年度 UNISON 体制	11
8.1. UNISON の活動目的	11
8.2. WG 体制	11
8.3. ML	12
9. 各 WG 活動内容・活動計画	13
9.1. CanSat WG	13
9.2. ロケット WG	15
9.2. ロケット WG	17
10. UNISON プロジェクト	18
11. 会場までのアクセス	19

## 1. UNISEC 総会・活動報告会概要

### 1.1. UNISEC の概要

大学・高専の学生による手作り衛星・ロケットをはじめとする宇宙工学活動を支援するために設立された特定非営利活動法人（NPO）である。技術開発，人材育成，外部へのアウトリーチという 3 つの柱からなる活動を推進している。大学ならではの地域に根ざした活動をそれぞれが行いながら連携を保ちつつ，国際的な活動にも参加し，レベルアップとボトムアップを図っている。

### 1.2. 総会・活動報告会の目的

各大学の開発プロジェクトの紹介と情報交流を中心に，衛星・ロケット技術に関する講義等を行うことにより「メンバーの技術力向上」を目指す。また，宇宙活動を行っていく上で障害となる行政上や法律上の課題など，技術面以外の課題についても幅広く情報や意見の交換を行い，「技術面にとらわれない広い視野を持つ」ことを目指す。さらに，UNISEC の学生部門として学生が主体的に行っている活動の進捗報告や今後の計画立案が行われる。

これらの発表等を通して，社会に開かれたコミュニティとして，多くの方に現在の活動内容と将来の計画を紹介する。

### 1.3. UNISEC 総会・活動報告会概要

UNISEC 総会・活動報告会の概要を以下に示す。

表 1 UNISEC 総会・活動報告会概要

日程	2018 年 7 月 28 日(土)~7 月 29 日(日)
場所	1 日目：横浜国立大学 理工学部講義棟 A 104,107,206 教室 2 日目：武田先端知ビル(武田ホール)
時間	1 日目：10:00~14:00 UNISON 全体会議，各 WG ミーティング 2 日目：13:00~18:00 各 WG ミーティング，総会・活動報告会
主催	NPO 法人 大学宇宙工学コンソーシアム (UNISEC)

## 2. プログラム

表 1 1日目プログラム

Day 1: 2018.07.28 (SAT) 会場: 横浜国立大学				
開始時刻	終了時刻	プログラムタイトル	登壇者・担当者	場所
9:40	10:00	受付	-	理工学部講義棟 A 107 教室
10:00	10:30	UNISON 全体 MTG	竹澤(CORE) 大関(静岡大)	理工学部講義棟 A 107 教室
10:30	10:40	移動時間		
10:40	14:00	各 WG 活動時間枠	各 WG 代表	(下記参照)
	10:40 - 14:00	(ロケット WG)	竹澤(CORE)	理工学部講義棟 A 107 教室
	10:40 - 14:00	(CanSat WG)	大関(静岡大)	理工学部講義棟 A 206 教室
	10:40 - 14:00	(衛星 WG)	小原(東海大)	理工学部講義棟 A 104 教室

表 2 2日目プログラム

Day 2: 2018.07.29 (SUN) 会場: 東京大学				
開始時刻	終了時刻	プログラムタイトル	登壇者・担当者	場所
10:00	12:30	UNISEC 理事会	UNISEC 事務局	
12:30	13:00	受付	UNISEC 事務局 運営ボランティア	武田ホール
13:00	13:50	UNISEC 年次総会	UNISEC 事務局	武田ホール
13:50	13:55	開会挨拶	UNISON 代表	武田ホール
13:55	15:15	各 WG 活動報告・活動計画	各 WG 代表	
15:15	15:25	UNISAS 活動報告	大崎	
15:25	15:45	休憩時間		
15:45	16:25	UNISON Project プロジェクト概要説明	UNISON 代表	
		ランチ共有しよう!プロジェクト 2017年度活動報告	岸里(東海大)	
		教育及びアウトリーチのための CanSat 中間報告	大関(静岡大)	
		ドローンプロジェクト(仮題)	須知(慶応大)	
		質疑応答	各プロジェクト 代表者	

16:25	16:45	<b>休憩時間</b>		
16:45	16:55	宇宙活動法について	内閣府宇宙開発戦略推進事務局 参事官 山口様	武田ホール
16:55	17:15	特別講演	JAXA 宇宙科学研究所宇宙飛翔 工学研究系川勝研究室 尾崎様	
17:15	17:20	6th UNISEC-GLOBAL 開催告知	川島 (UNISEC 事務局)	
17:20	17:25	閉会挨拶	UNISON 代表	
17:25	18:00	<b>移動時間</b>		
18:00	19:30	懇親会	UNISON 代表 / UNISEC 事務局	東京大学 中央食堂

※ 2日目 10:00-12:30 に武田ホールにて、UNISEC 理事会が開催されます。(詳細は事務局までお問い合わせください。)

※ スケジュールについては進行状況等に応じて変更になる可能性がございます。予めご了承ください。

### 3. 今年度学生代表紹介

2018年度 UNISON 代表を以下に示す。

#### 1. 竹澤 遼 [タケザワ リョウ]

> **所属**

横浜国立大学大学院 機械・材料・海洋系工学専攻 機械教育分野  
破壊強度制御研究室 博士前期課程 1年

> **連絡先**

takechan.elsa0314@gmail.com

#### 2. 大関 幸也 [オオゼキ ユキヤ]

> **所属**

静岡大学工学部機械工学科宇宙・環境コース  
山極・有田研究室 学部 4年

> **連絡先**

ice.cookie.0405@gmail.com

#### 4. WG 代表 / イベント代表 一覧

- |    |              |              |
|----|--------------|--------------|
| 1. | ロケット WG      | 竹澤 遼         |
| 2. | CanSatWG     | 大関 幸也        |
| 3. | 能代イベント代表     | 金丸 萌菜 東北大学   |
| 4. | 能代 CanSat 代表 | 須知 高匡 慶應義塾大学 |
| 4. | 能代ロケット代表     | 渡邊 虎春 九州大学   |
| 5. | ARLISS 代表    | 大関 幸也        |

## 5. 今年度 UNISEC 加盟団体一覧

2018年度 UNISEC 加盟団体と各団体代表者を以下に示す。

表 3 2018年度 UNISEC 加盟団体一覧

(2018年度 UNISON 代表)

	団体名	学生代表
	横浜国立大学 破壊強度制御研究室	竹澤 遼
	静岡大学	大関 幸也
1	CORE	伊藤 大智
2	東京工業大学 CREATE	田中 智也
3	高知工科大学 RaSK	池田 直崇
4	立命館大学 RISA	山本 喜代和
5	愛知工科大学 STELA	松下 稔
6	秋田大学 学生宇宙プロジェクト	吉元 翔
7	宇宙開発フォーラム実行委員会 SDF	今村 俊雄
8	大阪府立大学 小型宇宙機システム研究センター	清水 康平
9	神奈川大学 高野研究室/宇宙ロケット部	勝野 雄太
10	九州工業大学 衛星開発プロジェクト	大谷 将壽
11	九州大学 宇宙機ダイナミクス研究室	大渡 慶太
12	九州大学 PLANET-Q	垣花 元貴
13	慶應義塾大学 宇宙科学総合研究会 LYNCS	西尾 真
14	慶應義塾大学 Team Wolfe'z	小柳 亮介
15	近畿大学・宇宙マグロ	角至 悠希
16	静岡大学	大関 幸也
17	芝浦工業大学 芝浦宇宙航空研究開発部 SHARXS	粟木 理志
18	首都大学東京 宇宙システム研究室	西井 直輝
19	筑波大学 「結」プロジェクト	岡本 健宏
20	筑波大学 宇宙技術プロジェクト STEP	皆川 大雅
21	帝京大学 宇宙システム研究会	高橋 克典
22	電気通信大学 高玉研究室	桃原 明里
23	東海大学 衛星プロジェクト	浜田 彩香
24	東海大学 チャレンジセンター学生ロケットプロジェクト	根子 隆誠

	団体名	学生代表
25	東京工業大学 動設計学研究室	井手 亮我
26	東京工業大学 松永研究室	岩崎 陽平
27	東京大学 中須賀・船瀬研究室	冨田 健人
28	東京都立産業技術高等専門学校 宇宙科学研究同好会	佐藤 未悠
29	東京農工大学 宇宙工学研究部 Lightus	鈴木 麻友美
30	東京理科大学木村研究室	田村 尚子
31	東北大学 FROM THE EARTH	須藤 響子
32	東北大学 吉田研究室	本田 知之
33	徳島大学ロケットプロジェクト	三垣 和歌子
34	鳥取大学宇宙開発研究会 T-SATプロジェクト	奥村 圭紀
35	名古屋大学宇宙開発チーム NAFT	鬼淵 駿介
36	日本文理大学 中川研究室	斉藤 史俊
37	日本大学 宮崎・山崎研究室	吉光 航平
38	中京大学 電気宇宙工学研究室	服部 大希
39	北海道科学大学 三橋研究室	高橋 俊暉
40	北海道大学 宇宙環境システム工学研究室	津地 歩
41	金沢工業大学 牧野研究室	佐々木 貴志
42	早稲田大学宇宙航空研究会	佐茂 亮太
43	東京工業大学 CanSat Project	小林 寛之
44	名古屋大学 稲守研究室	稲川 智也
45	室蘭工業大学 学生宇宙研究開発機構 SARD	鈴木 康介
46	千葉工業大学 SPARK	山川 元栄
47	創価大学 衛星開発グループ	川本 直樹
48	日本大学 ロケット研究会	新井 史也
49	東京電機大学 TDU Space Project	大橋 憲悟
50	愛知工科大学 SuperNOVA(斎藤研究室)	秋山 実穂



## 6. 2017 年度 UNISON 決算報告

### 6.1. 収入の部

2017 年度収入内訳を以下に示す。

表 4 2017 年度収入内訳

項目	金額
2016 年度繰越金	¥1,406,021
2017 年度学生会員会費	¥2,727,000
利子, その他	¥10
合計 (A)	¥4,133,031

### 6.2. 支出の部

表 5 2017 年度収入内訳

項目	金額
総会・WS 運営費	¥674,238
10 月イベント運営費	¥366,549
CanSat WG 活動費	¥256,861
ロケット WG 活動費	¥306,879
GSN WG 活動費	¥0
衛星 WG 活動費	¥0
UNISON Project	¥145,838
15th イベント支援	¥16,000
UNISON 代表 活動費	¥366,880
UNISEC 事務局 活動費	¥277,800
手数料, その他	¥18,020
合計 (B)	¥2,429,065

### 6.3. 繰越金

(A) - (B) : ¥1,703,966

## 7. 2018 年度 UNISON 予算案

### 7.1. 収入の部

2018 年度収入内訳を以下に示す。

表 6 2018 年度収入内訳

項目	金額
2017 年度繰越金	¥1,703,966
2018 年度学生会員会費	¥2,454,000
合計	¥4,157,966

### 7.2. 支出の部

2018 年度の各予算案を以下に示す。

表 7 2018 年度予算内訳

項目	執行責任者	金額
UNISEC 活動費支出 (会費の 10%)	UNISEC 事務局	¥245,400
定例イベント	総会	¥377,489
	ワークショップ	¥350,000
ロケット WG	竹澤遼(CORE)	¥599,400
CanSat 関連イベント	大関幸也 (静岡大)	¥1,100,000
UNISON Project	UNISON 代表	¥1,300,000
代表者活動支援・予備費	UNISON 代表	¥150,000
合計		¥4,122,289

## 8. 2018年度 UNISON 体制

### 8.1. UNISON の活動目的

- + 単独の研究室や団体だけではなし得なかった、大規模プロジェクトの実施
- + 多くの学生が協力し合い、宇宙開発の裾野を広げ、新しい技術フィールドを開拓すること
- + 研究室や団体にとらわれない横のつながりを深め、意見交換を積極的に行えるような環境づくり

### 8.2. WG 体制

2017年度のWG活動実績等を踏まえ提案する2018年度UNISON体制について、その意図と活動内容の概要を以下に示す。

これまで交流会の企画・運営を担当していた交流会WGについては、今年度の体制からは削除された。なお、今後の交流会については有志メンバー・UNISON代表を中心に企画・運営を実施していく予定である。

CanSat WGについては、能代宇宙イベント運営チーム、ならびにARLISS運営チームを設置し、チーム間で連携をとりながら活動を進める。また、GSN WGについては、今年度はその存在意義について議論し、今後の方向性を決めていく。

ロケットWGについては、昨年度と同様の体制で運営を実施する。

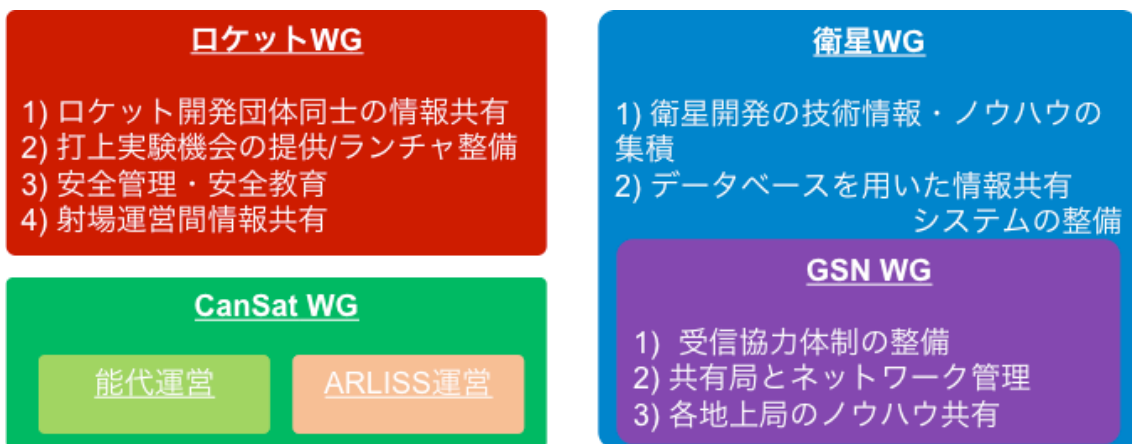


図 1 2018年度WG体制案

### 8.3. ML

2018 年度 UNISEC の学生で運用されている ML 一覧を以下に示す。

表 8 2018 年度 UNISEC 関係 ML 一覧

ML アドレス	メンバー
unison2018@googlegroups.com	2018 年度 UNISON 全体 ML
unison_rep@unisec.jp	UNISON 代表 ML

## 9. 各 WG 活動内容・活動計画

### 9.1. CanSat WG

CanSat の開発団体は年々増えており、CanSat 開発は盛り上がりを見せている。その一方で、ミッション成功団体が少ない現状や、安全管理上の問題が指摘されている。また、CanSat を新技術や工学理論の実証実験の場としてより発展・拡大させることが大切と考えている。これらを踏まえ、本年度の WG 活動は、「ARLISS」「能代宇宙イベント」「運営体制の強化」の 3 つを軸として活動している。

#### 1) ARLISS

4 年前から「自己審査プログラム」を導入している。これは各団体で、自分の CanSat を開発メンバーおよび指導教員によって評価し、さらに評価書類の正当性を他の団体の指導教員で評価するものである。

昨年までは予備審査、本審査を行っていたが、今年からはさらにミッションレビューを行っている。このレビューは「ミッションが定まっていなければきちんとした機体は作成することができない」という意見に基づいており、まだ変更が可能な開発の初期の段階にレビューを行っている。

また、本年度も ARLISS の安全管理のために、参加者用のガイドブック・セーフティガイドを作成している。昨年度までに発生した事故事例をまとめ内容を更新し、再発の防止に努めている。

2018 年の大会は海外チームの参加が非常に多く、ガイドブックの英訳を行った。

#### 2) 能代宇宙イベント

昨年度と同様、大幅な参加者の増大に対応するため、2 つの気球を用いて CanSat を投下する。また、昨年度から義務化されたプロジェクト計画書及び完成報告書の提出によって、初参加の団体でも Project Management/System Engineering を意識した開発を行うこと、機体を完成させた状態で大会に臨むことを前提とすることで、成功率の向上や運営の円滑化を図っている。

さらに今年度では更なる運営の円滑化を目指し、各チーム運営補助の参加義務化とドローン投下実験の試験的運用を導入した。ドローン投下実験の試験的運用はミッション部門、フライバック部門での投下実験で行い、実験スケジュールの円滑化や運営の負担軽減の可能性を探る。ドローン投下実験では気球投下実験に比べ、同一高度で実験を続けられる可能性もあり、投下実験の平等性も改善できると期待する。

### 3) 運営体制の強化

能代宇宙イベント(CanSat 部門)・ARLISS において、主に運営に関わる学生数が少ないという課題がある。今年度は、能代宇宙イベント(CanSat 部門)で各チームの運営補助参加義務化を導入し運営の学生数の改善を図った。結果として、運営の人数は昨年度に比べ増加したので投下実験の円滑化を期待する。ARLISS では、各団体から回収する参加費を増額し、運営に関わる学生への補助を増額し、負担を軽減する予定である。来年度以降、さらなる運営支援を行っていきたいと考えている。

## 9.2. ロケット WG

ロケットWG加盟団体は増加の一途をたどり、現在では 20 を越える研究室や団体が所属している。また、近年めまぐるしい UNISEC やロケット WG が置かれている状況の変化への対応も求められている。今年度は射場運営間での情報共有・連絡の強化と新規団体から古参団体までそれぞれのニーズを満たす情報共有・技術交流のあり方見直しを中心に学生ロケットの裾野を広げ、技術力向上を図るとともに安全管理の更なる徹底を行っていく。

### 1) ガイドラインの改訂

これからロケットの製作に望もうとしている新規団体の多くは製作から打ち上げまでの具体的な情報を必要としており、一方で既存団体には形式化しており口頭のみでしか伝えてこなかった実験には必須の技術や準備、取り決めがある。また、慣習化しているが改善の余地がある技術や運用手順書などもある。これらのノウハウを一度文書化することにより、ロケットWGに加盟した団体全体で継続的な技術進歩の一助とする。

### 2) 新ランチャの建造

ランチャの不足により打ち上げ実験の長期化、ランチャ所有団体の負担増加、さらにはランチャを所有しない団体は実験を行う機会が限定されるなどの問題が生まれている。加盟団体全体で共有できるランチャの作成により、これらの問題を解決するのが本活動の目的となる。なお、ランチャ建造に関しては昨年度の UNISON プロジェクトとして共有ランチャ 2 号機が製作され、今年もランチャ講習会を行うことで運用方法の継承を行う。

### 3) 安全教育の実施

継続的にロケット打ち上げ実験及びエンジンの燃焼実験を行なっていくためには事故を起こさないことが必須である。改めて基本的なことから安全に関して情報共有を行い、UNISEC 内外で定められた安全のためのガイドライン等を再確認し、一人一人が安全について考える機会を総会や WS を中心に設ける。

### 4) 射場運営間情報共有

現在日本では能代、伊豆大島、加太の 3 箇所です学生によるロケットの共同打ち上げ実験が実施されている。しかし今までは 3 射場での連携や情報共有は乏しかった。そのため、他の射場で培われた運営のノウハウや安全審査の項目が共有されず、運営の非効率化及び安全管理に関する情報の抜け漏れが生じていた。そこで今年度からは 1~2 ヶ月に一度射場における実験の責

任者である実験代表・ロケット代表を中心として射場間会議を行ない、情報の共有及び射場が抱える課題の相談・解決を図る。

### 5) ロケット WG における取り決めの制定及び改定

ロケット WG での活動を円滑に行い、また学生ロケットの発展を促進する為に取り決めの制定及び改定を行なった。

1 つ目は UNISON ロケット WG の共有物品の扱いに関するものである。SUBARU エンジンプロジェクトなど UNISON プロジェクトなどで購入・製作した共有物品を各団体がトラブル無く円滑に利用できるための取り決めを行なった。

2 つ目は GSE 運用委託に関する取り決めである。2016 年に 2 年の猶予期間を過ぎた団体は GSE の運用委託は全面禁止となり、GSE を自前で用意できない限りはハイブリッドロケットが打てなくなるという取り決めがなされた。しかし、GSE は大変高価なものである為学生団体が自前で用意するのはハードルが高い上に委託を全面禁止してしまうと新規団体は今まで培って来た機体や電装などの技術を失いかねなかった。そこでこの取り決めに廃止し、GSE 委託を認める新たな取り決めにロケット WG 代表者会議にて全会一致で採択した。これを受けて今後 UNISON が委託禁止を指示することは無い。

表 9 2018 年度ロケット WG 活動計画案

年間活動スケジュール	
8 月	能代宇宙イベント
9 月	加太宇宙イベント, 11 月大島キックオフ MTG
10 月	
11 月	伊豆大島打ち上げ実験
12 月	UNISEC ワークショップ
1 月	3 月加太キックオフ MTG, 3 月大島キックオフ MTG
2 月	代表者 MTG⑦
3 月	加太共同実験, 伊豆大島共同打ち上げ実験
4 月	伊豆大島共同打ち上げ実験成果報告会
5 月	能代イベントキックオフ MTG
6 月	



## 9.2. ロケット WG

衛星 WG は衛星開発団体の開発促進・支援を目的として、「情報共有の取り組み」と称した活動を 2010 年度より継続して実施している。本取り組みは以下に示す 2 つの項目を柱として活動を行っていたが、今年度は活動の見直しを実施する。

### 1) 情報共有発表会・ディスカッション

衛星開発情報の共有を目的として、情報共有発表会又は、情報共有ディスカッションを開催する。回数については未定であるが、例年通り 2~3 回(夏季・冬季・春季)程度実施する予定である。また、発表会/ディスカッションの実施にあたり、適宜運営のための会議を行うとともに、運営会議の参加メンバーおよび有志メンバーを中心に、後述するデータベースと併せて情報の文書化・蓄積を行う。

衛星 WG では、これまでに、10 回の情報共有発表会、6 回の情報共有ディスカッションを実施している。取り組み開始当初は発表会だけであったが、発表会形式では発表者から情報を受け取るだけになり易く、議論が行なわれにくいことが問題点としてあげられていた。これは、本取り組みの Give&Take の理念から離れてしまう可能性がある為、必要に応じてディスカッション形式の企画も実施することで問題解決を図っている。この 2 形式のイベントのみに絞って実施し、他の形式のイベントについても検討が行われていたが現在は参加者の減少によりイベント回数も減少し、イベントに参加する意義やメリットを見出せなくなっている問題点がある。

### 2) データベース化

発表会の資料をはじめ、各団体の衛星開発に関するデータ・ノウハウをデータベースとして蓄積する。このデータベースは WEB 上に設置され、取り組み規約に参加している UNISON 会員ならだれでも閲覧可能である（ただし、閲覧にはパスワードが必要）。

既に、複数の衛星開発に関する技術情報が WEB データベース上に蓄積され、この技術情報をもっとうまく活用するために、データベースの整備・推進活動を行われていた。

問題点として、現在はイベント回数の減少により更新頻度も下がったことも起因してこのデータベースがうまく活用できなくなっている。

### 3) 運営体制の強化

近年、運営メンバー・イベント参加者の減少、ならびに参加団体の減少がみられる。これまで、衛星開発に携わっている団体は一括りにして活動を実施してきた。ただし、実際には学年も開発フェーズも異なるため、全団体にとって有意義な活動とはいえない状況が続いており、対策

が必要な状況である。したがって、今年度についてはこの点についても運営会議等を通じて対策案を講じていく所存である。

特に衛星開発を経験した団体と未経験の団体間での関係性が希薄な点を解決し、多様な観点から衛星開発に関して議論や情報共有を行うことを目指す。

## 10. UNISONプロジェクト

今年度の各 UNISON プロジェクトの申請書につきましては、下記 URL をご参照下さい。  
[https://drive.google.com/drive/u/0/folders/1iA\\_NmxwqJ5b1iP73Zyh7VfbN--FOh2YY?ogsrc=32](https://drive.google.com/drive/u/0/folders/1iA_NmxwqJ5b1iP73Zyh7VfbN--FOh2YY?ogsrc=32)

申請頂いた UNISON プロジェクトを以下に示す。

### 1. CANSAT 投下用ドローンプロジェクト

責任者：須知 高匡（慶應義塾大学）

投票結果

投票数 16 賛成 16 票 反対 0 票 信任

## 11.会場までのアクセス

### 1) 1日目 UNISON 集会

場所：横浜国立大学

会場：理工学部講義棟 A 107 教室（全体集会，ロケット WG），  
104 教室（衛星 WG），206 教室（CanSat WG）

※107 教室だけ独立した建物となっております。

- ◆横浜市営地下鉄ブルーライン ミツ沢上町駅から徒歩 16 分（正門まで）
- ◆相模鉄道線相鉄本線 和田町駅徒歩 20 分（南門まで）
- ◆横浜駅西口→岡沢町（正門すぐ） 市営バス，神奈川中央バス，相鉄バス
- ◆横浜駅西口→ひじりが丘（北門まで徒歩 2 分） 相鉄バス

□アクセスの詳細

<http://www.ynu.ac.jp/access/index.html>

□バスの案内詳細

<http://www.ynu.ac.jp/access/bus.html>

**※門を入ってから会場の教室まで 10~15 分かかる場合があります**



図 2 横浜国立大学アクセスマップ

## 2) 1日目懇親会会場（台風のため中止）

店名：手作り居酒屋 甘太郎 横浜北幸店

住所：神奈川県横浜市西区北幸 1-8-6 横浜西口三栄ビル 6F

最寄り駅：各線 横浜駅 徒歩 3分



### 3) 2日目 UNISEC 総会

東京大学本郷キャンパス / 浅野キャンパス付近には以下の3つの駅があります。

- + 東大前駅 (東京メトロ 南北線)
- + 根津駅 (東京メトロ 千代田線)
- + 本郷3丁目駅 (東京メトロ 丸の内線 / 都営地下鉄 大江戸線)

浅野キャンパス 武田先端知ビル(武田ホール)にて実施いたします。

また、懇親会については東大 第二食堂(本郷キャンパス)にて実施となります。



※ 詳細については、当日 UNISEC 事務局職員 / UNISON 代表 / ボランティアスタッフまでお尋ねください。